

講社お預り祭文

これの○○講のお社にお鎮まり下さいます神実様の御前に慎んでお願い申し上げます

今日この日を暫しの別れの日として 尊き講社の理を元の△分教会に預かりすることに相成りましたが この節を通して改めて約五十年前の○○○○様の次男△△君が入信早々の純情な姿が脳裏に浮かび上がって参ります 不幸にしてワツシヨイワツシヨイのか細い掛け声を口ずさみながらひのきしんに勇み立ちつゝ、今生の目を閉じられました が 母親を慕う心が人一倍強かった故ではないでしょうか！

その母の二十年前からの右足の骨膜炎がものゝ見事に救かりこの奇跡に感謝し 早速修養科に入り 亡き△△君を偲びつゝ、二人分の授業を受け 二人分のひのきしんに励まされた元一日が かくて親神様の極めて純真なよふぼくとなられ いち早く講社を結成し昭和五十年静かに出直されました その後 はご長男○○様ご夫妻がお道の信仰を継承されて今日に至り○○分教会では珍しいダイヤモンド婚式となる程の家庭生活を楽しまれ 昨年静かに共に眼を閉じられたのであります

今日この日を境として 若い人々は信仰前に姿に返って くれからの人生を歩む予定となり 万止むを得ず 神実様をお預かりすることに相成ったのでございます

どうかそれでも今後とも折角の今日までの信仰を生かし おつとめの御声は聞こえなくなっても 生涯陽気ぐらしの世界建設を睨に描き 家族皆が仲良く相助け合ってお通り下さいますよう 心からお祈り申し上げます